

防蠅、野菜洗滌等ノ設備、殘渣及魚腸骨ノ處理等ハ漸次改善セラレ、飲食物ヲ販賣スル露店業者ニ對シテモ設備及取扱方法ノ改善ヲ促シ、又一方ニハ従業員ニ對スル保菌者檢索ノ勵行ニ努メタリ。尙東京市ノ主要地域ニ於テハ雜芥ト厨芥トヲ區別セシメ、厨芥ハ毎日蒐集處理セシムルコト、シ漸次之ヲ擴張シ居レリ、之ガ爲蠅ノ發生モ著シク減ズル傾向アリ良好ノ結果ヲ收メツ、アリ。

十二、便所及下水道ノ改善

東京市ノ舊市域ニ於ケル下水道改良事業ハ逐次進捗シ居レリ、而シテ下水幹線ト建築物トヲ連結スル私設下水及放流便所ノ施工ニ就テハ東京市下水課ト協力シテ地主、家主ニ對シ勸奨シ居レル處ナルガ、比較的富裕ニシテ亦熱心ナル町會ニ於テハ弱資力者ニハ家主ト借家人ト共同負擔ニテ月賦或ハ日賦拂込ノ方法ヲ講ジテ施工シ、町内舉ツテ水洗式便所ニ改造セシムルモノモアリテ、漸次改善氣運ノ進展ヲ見ツ、アリ。

本施設ヲ積極的ニ完成セシムル爲ニ七月告示第二三八號ヲ以テ建築物法施行規則第十二條第二項ノ規定ニ依リ、麴町、神田、芝、赤坂、牛込、本郷、下谷區ノ一部、淺草、京橋區ノ大部及日本橋區ノ全部ノ地域ニハ昭和十二年一月一日以後汲取便所ノ新設ヲ禁止スル旨ヲ指定シ、又同日廳令第九號ヲ以テ右區域ニ於テハ昭和十七年四月一日以後ハ汲取便所ノ使用ヲ禁ズル旨發令シ、此猶豫期間中ニ前述施設ノ達成ヲ期スルコト、爲セリ。

新東京市域及郡部町村等ニ對シテハ普通下水道ノ應急改良ヲ勸奨シ、又多槽式汲取便所ノ設置ニ就テモ相當勸奨ニ努メ居レリ。

十三、保菌者檢索

當廳ニ於テハ腸「チフス」及赤痢豫防上夙ニ保菌者檢索ノ須要ナルコトヲ認メ、毎年料理屋、飲食店、旅館、菓子製造業、魚介商、豆腐及煮染商等ノ特殊營業ノ從業者及家族、本病ヲ經過全治シタル者及其ノ他ノ檢便ヲ施行シ左表ノ如ク年々多數ノ保菌者ヲ發見シ居レリ、併シ管下ニ於ケル此等特殊營業者ハ甚ダ多數ニ上レル爲ニ常ニ經費ト作業能力トニ制肘セラレテ必要回數ヲ反復施行スルコト困難ナル事情アルヲ以テ、特ニ丸ノ内、銀座、神田、新宿及淺草、戸塚等ノ如キ殷賑地ノ飲食店組合並百貨店ノ食堂従業員ニ就テハ自主的方法ヲ採ラシメ、組合等ヨリ東京市衛生試驗所ニ一定料金ヲ納入シ依託檢査ヲ行ハセタリ、尙從來特設防疫班ヲ置キテ特殊營業者ニ對シ年々檢便ヲ施行シ居リシモ、豫算ノ關係上本年三月限り之ヲ廢シ、爾來警察署配置防疫職員ヲシテ施行セシメ居レリ。昨十年十二月保菌者檢索事務取扱順序制定ニ依リ、從來腸「チフス」及「バラチフス」ノ全治退院者ニ對シ五回反復檢査ヲ行ヒシヲ爾後三回ニ減ジ、又赤痢患者ノ全治後ニモ可及的之ヲ實施スルコト、爲セリ。

◎(甲) 腸「チフス」「バラチフス」病原體保有者檢索成績表

其	全 治 退 院 者					特種營業者 防疫班施行 各署施行	露店飲食物販賣者	學校、會社、工場等ノ食堂従業員	宮内省食料品納入者	患者家族及同居人	前保菌者	検査數	保菌者發見數		發見千分率	前年同期發見千分率	
	計	第一回	第二回	第三回	第四回								「腸チフス」	「バラチフス」			
他	九、二七五	二、四三四	五二	六〇	五四九	一、〇〇四	七六九	三三、七二六	一六、四七五	一三、三四五	一一、五八五	二九	六	六	一九三	〇・二四	〇・三三
計	二、四三四	二、四三四	五二	六〇	五四九	一、〇〇四	七六九	三三、七二六	一六、四七五	一三、三四五	一一、五八五	二九	二七	四	一九三	〇・二四	〇・三三
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

台	計	保菌者發見數	發見千分率	前年同期發見千分率		
刑務所其他在京官廳ノ依頼ニ依リ検査シタルモノ	一九〇、四五三	八三	四六	一二九	〇・六八	〇・五六
百貨店ノ食堂従業員イ	一一、〇二一	一	一	一	〇・〇九	〇・四三
料理飲食店組合ニ料金ヲ負擔セシメテ検査シタルモノ	二六、八五〇	一	一	一	〇・〇四	〇・〇四
他ノ検査所(病院)ニ於テ發見シタルモノ及病後繼續排菌者	一一、一二五	二	六	二八	〇・〇四	〇・〇四
當座管外ヨリ轉入シタルモノ	不詳	三	三	三	〇・〇四	〇・〇四

備考 一、(イ)ノ内三越呉服店ニ屬スルモノハ同店検査室ニ於テ毎月一回、其ノ他ノ百貨店及(ロ)ハ全部東京市衛生試験所ニ於テ検査シタルモノナリ

二、特種營業者トハ旅館、料理屋、飲食店、菓子製造業、豆腐商、魚介商及煮メ商等ヲ云フ

●(乙) 赤痢病原體保有者檢索成績表

檢索範圍別	檢査數	保菌者發見數	發見千分率	前年同分率
特種營業者 防疫班施行 各署施行	一三、〇一六 九〇、四四三	三八 二〇二	二・九二 二・二三	三・六九 二・七九
露店飲食物販賣者	三三、六八八	七一	二・一一	三・六〇
學校、會社、工場等食堂従業員	一六、四六三	二七	一・六四	二・七八
宮内省食料品納入者	一三、三三九	一一	〇・八二	三・一〇

患者家族及同居人 前保菌者	全治退院者			計	共他	合計	刑務所其他在京官廳ノ依頼ニ依リ 検査シタルモノ	百貨店ノ食堂従業員イ 料理飲食店組合ニ料金を負擔セ シメテ検査シタルモノ	他ノ検査所(病院)ニ於テ発見シタ ルモノ及病後繼續排菌者	當座管外ヨリ轉入シタルモノ
	第一回	第二回	第三回							
五八、四六八 八五〇	六、六六八	四、七二九	一、五二九	一二、九二六	九、三〇九	二四八、五〇二	一一、〇二〇	二六、八五〇	一一、一二五	不詳
五八九 四五	三四七	一八九	六一	五九七平均	二七	一、六〇七	一〇	八	四	一七
一〇〇七 五二・九四	五二・〇四	三九・九七	三九・九〇	四六・一九	二・九〇	六・四七	〇・九一	〇・三〇	〇・三三	
八・二三					一〇・五三	五・一一	一、八八	〇・二四	〇・三〇	

備考 甲表ノ備考一及二参照

十四、腸「チフス」豫防注射

大正十三年腸「チフス」ノ蔓延甚シキニ稽ミテ豫防注射ノ奨励ヲ開始シ、爾來東京市内一般市民ニハ主トシテ東京市製造ノ「ワクチン」ヲ充テ、工場其ノ他ノ集團生活者並郡部ノ一般民ニ對シテハ當應ニ於テ「ワクチン」ヲ製造シ之ヲ各主體ニ供給シテ豫防注射ヲ實施セシメ居レリ、本施設ハ幸ニ一般民ノ理解ヲ得テ第一表ノ如ク昭和三年頃ヨリ年々人口ノ約三〇%ニ普及スルニ至レリ、蓋シ常在各傳染病ハ近年競テ患者増發ノ趨勢ヲ呈セルニ腸「チフス」ハ暫ラク小康ノ狀ヲ維持セル一半ノ理由ハ本施設ノ效果ニアルコトヲ信ズルモノナリ。

然ルニ町會ノ年中行事トシテ施行シ來レル本豫防注射モ數年ニ亘ル本病流行ノ類勢狀態ニ馴レテ民衆漸次關心ヲ失ヒ、注射施行主體ノ幹部亦熱意ヲ缺キ或ハ煩勞、疼痛ヲ厭ヒ、替フルニ内服「ワクチン」ヲ以テセントスル傾向モ亦アリテ、從來ノ豫防施設中ノ主要事項タリシ本施設ガ近年動モスレバ等閑視サル、傾アルヲ以テ實施上ニ督勵ヲ加ヘ居レリ、又八王子市及多摩三郡ニ對シテハ流行ノ狀況ニ應ジ腸「チフス」「バラチフス」混合「ワクチン」ヲ支給シテ專ラ勸奨ニ努メタリ、同方面ハ従前屢々「バラチフス」ノ流行アリタルトコロナルガ近年鎮靜ヲ見ツ、アルハ本施設ノ效驗ナルベシ。本年管内ニ發生シタル腸「チフス」患者二千百九十七名ニ就テ所轄警察署ニ於テ調査ヲ行ヒ、發病前一ケ年内ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアリトノ(注射後二週以内ノ發病者ハ除ク)報告ヲ爲セルモノ六十九名ヲ算シ、此ノ内十三名ハ死亡轉歸ヲ爲セリ。

●第一表 腸「チフス」豫防注射施行人員表

年次區分	注射人員		人口ニ對スル注射人員百分比
	完了者	中斷者	
昭和七年	一、二九〇、九九四	三三六、九一八	二八・二九
同八年	一、三七一、五三一	三〇六、四四五	二八・四四
同九年	一、六七〇、八三一	三一一、五九四	三二・五二
同十年	一、六七六、一三一	三〇〇、四九三	三一・三二
同十一年	一、六八四、一四四	二四五、六八八	二九・六五
計			

●第二表 腸「チフス」發病前一ケ年以内ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアル者ノ調

年次區分	豫防注射施行人員	發生腸「チフス」患者總數		注射後罹患者	同上中死亡者
		患者總數	罹患者		
昭和七年	一、六二七、九一二	三、二〇三	一〇二	一一	
同八年	一、六七七、九七六	三、二七三	一一三	一四	
同九年	一、九八二、四二五	二、七一〇	一一四	一四	
同十年	一、九七六、六二四	二、四〇三	一〇〇	一一	
同十一年	一、九二九、八三二	二、一九七	六九	一三	

備考 豫防注射施行後十四日以内及一年以上ヲ經過シテ發病シタル者ハ「注射後罹患者」欄ニ計上セズ

十五、赤痢内服「ワケチン」ノ應用

當應ニ於テハ赤痢疫痢豫防對策ノ一トシテ、去ル昭和五年ニ「豫防内服薬」ヲ創製シテ試用シ、昭和七年ヨリ管下三歳乃至七歳ノ全兒童ニ治ク之ヲ頒布スルコト、セリ、本年モ豫メ警察署ヲシテ各自治團體等ニ就テ實費ヲ辨償シテ本豫防薬ノ配給ヲ希望スル者ヲ調査セシメテ其ノ所要數ヲ決定シ、當應細菌検査所ニ於テ十三萬人分(一人分ニハ異型Ⅰ及同Ⅲ菌各四〇種ノ死菌ヲ含有ス)ノ菌培養ヲ行ヒ、其ノ他ハ傳染病研究所及北里研究所ニ菌ノ培養ヲ委託シ之ヲ一人分三個ノ錠劑ニ製劑シ、管下一齊ニ配給服用セシメタリ。之ガ實施成績ヲ概述スレバ左ノ如シ。

1. 配給方法

先ヅ既定經費ヲ以テ製劑シタル十三萬人分ハ無償ヲ以テ特殊地域ニ配給シ、其ノ他ハ前年ノ通一人分金十錢ノ實費ヲ徴シテ交付スル方法ニ依レリ。而シテ配布方法トシテハ統制力アル町會衛生組合等ノ團體ニ對シテハ其ノ配布ヲ任シ、特ニ流行濃密ナル方面ニ於テハ兒童ノ保護者ヲ最寄小學校ニ召集シ三、四百人宛ヲ一團トシ防疫職員ヨリ服用ニ關スル注意ヲ口述シタル後町會役員ヨリ豫防薬ヲ手交スル方法ニ依リ、五月初旬開始六月上旬ニ全部ノ頒布ヲ了シタリ、其ノ人員六十七萬百六十一人ヲ算シ、管下三歳乃至七歳兒童數ノ九割餘ニ及ベリ。

2. 效果ニ關スル考察

(イ) 實施對象ニ就テ

本年内服「ワクチン」服用者ノ普及率ハ前述ノ如ク、當時ノ推計目標兒童數ノ九割一分ニ及ベリ、然ルニ管下ノ住民ハ流動代謝ノ間ニ著明ナル人口増加ノ現象アリテ服用後年末迄ニ管外へ轉出シタル者、死亡シタル者或ハ交付ヲ受ケタルニ拘ラズ服用セザリシ者等ヲ差引クトキハ、服用者ハ漸次減少シ結局年末現在數トシテハ推計六十三萬四千三百人位ニ見積ラル。

一方豫防藥頒布後年末迄ノ間ニ於テ發生シタル患者ニ對シ、警察官吏又ハ防疫職員實查ノ結果豫防藥服用者ニシテ罹患シタリト認メタルモノハ第一表ノ如ク、六千七百六十九名(服用後十四日タルモノハ免疫效力發現前ノ者ト見テ之ヲ除ク)ヲ算シタリ。

(ロ) 患者發生率ヨリ觀テ

前掲ノ年末現在數ヲ以テ服用人員ニ對スル服用後罹患率ノ萬對比ヲ概算スレバ一〇六・七一ニ該レリ。又年末現在ニ於ケル同年齡級ノ服用セザリシ人員ヲ求メ其ノ萬對患者發生率ヲ概算セバ一五八・三九ニシテ兩者ハ一對一・五ノ割合ニシテ前年ニ比シ低下セリ。

尙此ノ發生患者ヲ年齡別ニ觀察スルニ、何レノ年齡ニ於テモ服用者ト、非服用者トノ發生率較差ハ略相類似シ、而モ前年ノ成績トモ概ネ近似シ居レリ。

● 第一表 人口割合ヨリ觀タル豫防藥服用者ト非服用者トノ罹病比較

年次	目標兒童人口		罹患者數(赤痢、疫痢)		人口萬對發生率		對比
	服用者	非服用者	服用者	非服用者	服用者	非服用者	
昭和十一年(日露人口ノ分配付)	六四、三三〇	一〇九、四八〇	六、七六九	一、七三四	一〇六・七一	一五八・三九	1.1 1.5
昭和十年(右(赤痢)分配付)	六三、一七六	一〇一、一八三	五、六七九	一、九三三	九〇・六九	一九六・八七	1.1 2.2
同 九年(右(赤痢)分配付)	六〇、三三〇	九〇、三三〇	四、八五九	一、六〇九	八〇・二四	一七六・三三	1.1 2.2
同 八年(右(赤痢)分配付)	五八、五三三	一三三、三七七	三、九三三	二、八二六	七二・五七	二三〇・二四	1.1 3.2
同 七年(右(赤痢)分配付)	四九、八三三	一七三、七七八	一、九八六	二、三三二	四三・二五	一三四・二五	1.1 3.0
同 六年(右(赤痢)分配付)	一一九、九四四	一三〇、四九九	五、五五五	四、五五三	四四・六三	一〇五・七六	1.1 2.4

備考 本調査ハ豫防藥配付後、二週間以上經過シ發病シタル(自三歳至七歳)モノヲ集計セルモノナリ

(ハ) 全發生患者數ノ動向ヨリ觀テ

上記ノ如ク目標年齡者ノ殆ト全部ニ豫防藥ヲ配給シ、前記ノ如キ相當ノ效果ヲ擧ゲ得タルニ於テハ先ヅ其ノ年齡級ノ患者數ヲ抑制シテ總患者統計上ニモ若干ノ變調ヲ現シ、何等カノ證明ヲ得ラルベシトハ一應考ヘラル、所ナリ。

本年ハ赤痢ノ病名ヲ附シタルモノハ八千七百名、同疑似症(警視廳令ニ依リ豫防法ヲ適用ス)二千七百十七名、疫痢七千六百四十九名、合計實ニ一萬九千六十六名ノ多數ニ上レルガ本施設ノ目標タリシ三歳乃至七歳ノ罹患者ノ動向如何ヲ見ルニ、従前ハ三歳乃至七歳ノ罹患者ガ總患者ノ六五%前後ナリシニ

前二年ハ六二%本年ハ六〇・〇三%ニ低下シ來レリ、蓋シ僅微ニ過グル感ナシトセザルモ以テ本施設ノ效果ノ一面ヲ表現セルモノナラン。

由來助長行政上ノ實際現象ニハ、科學的數理的解説ヲ下シ得ザル玄妙ナル反動的結果ヲ齎スコト少シトセズ、第二節ニ述ベシ如ク近來本病患者ノ届出ハ著シク促進ノ狀アルニ、更ニ本施設ハ罹患率ノ著大ナル幼兒ノ家庭ヲ悉ク刺戟シテ、疫痢ニ對スル關心ヲ扶殖セシムル爲ニ爾後ハ衝動性ニ所産スル届出患者モ相當多數ニ上レル見込ニシテ、本豫防藥ノ效果量定ヲ不鮮明ニ陥ラシムル傾少シトセズ。

●第二表 豫防藥配付以後ノ赤痢患者發生年齡別

年齡別	昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
	服用者 患者數 人口萬對比	非服用者 患者數 人口萬對比	服用者 患者數 人口萬對比	非服用者 患者數 人口萬對比	服用者 患者數 人口萬對比	非服用者 患者數 人口萬對比
計	四、八九九	一、六〇九	五、六七九	一、九九三	六、七六九	一、七三四
七歲	四、〇〇〇	一、四〇〇	三、三〇〇	一、一〇〇	三、六〇〇	一、〇〇〇
六歲	七、七〇〇	二、三〇〇	八、九〇〇	二、七〇〇	九、〇〇〇	二、八〇〇
五歲	一、一〇七	三、三〇〇	一、二九〇	四、三〇〇	一、六〇〇	三、七〇〇
四歲	一、四〇八	三、三〇〇	一、七〇〇	三、七〇〇	一、九〇〇	三、三〇〇
三歲	一、三三三	三、三〇〇	一、三〇〇	二、七〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇

●第三表 赤痢總患者百中三歲乃至七歲ノ毎月發生率

月別	昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
	自三歲 至七歲	二歲以下 八歲以上	自三歲 至七歲	二歲以下 八歲以上	自三歲 至七歲	二歲以下 八歲以上
計	八、九九七	五、五三〇	一〇、五七〇	六、三六七	一一、四四五	七、六三二
一月	二〇五	一七二	四〇七	四二四	二九三	一九三
二月	二四三	一八一	三三五	二四〇	二九三	二二一
三月	四三三	二七九	三〇〇	三〇〇	四九二	三三七
四月	五〇〇	三〇〇	三三三	三三三	六三三	三九八
五月	七四八	三六〇	九七七	五三三	八四三	五〇五
六月	一、〇五六	四四二	一、一五〇	五九〇	一、三〇〇	六三三
七月	一、六七四	八八八	一、八二八	九〇〇	一、八四一	一、二三三
八月	一、五〇三	九四九	一、八六七	一、〇六六	二、四〇〇	一、四三三
九月	一、〇五三	七四四	一、四四一	七六六	一、五七一	一、一九二
十月	七三三	五七四	八〇八	六三三	八九四	八三六
十一月	五三三	四〇〇	四八八	三三三	五六四	四〇七
十二月	三三三	二四八	三〇七	二五八	三九三	三五〇
計	六、三九三	三、七〇九	六、三三三	三、五三三	六、三三三	三、五三三

第八節 「チフテリア」及猩紅熱ノ豫防

一、豫防知識ノ普及啓發

流行季節ニ本病豫防ヲ目的トスル講演會ヲ開催シ、亦消化器系傳染病豫防ノ講習會、講演會ニモ狀況ニ依リ之ヲ併セテ講述シ或ハ宣傳映畫ヲ上映スル等民衆ノ豫防知識教養ニ努メタリ、右ハ前年刊行ノ「パンフレット」及豫防注射勸奨ノ「リーフレット」等ト相俟テ民衆ノ豫防警戒ニ關スル知識ヲ啓發スルニ至リ、豫防注射實施ノ際等ニハ各注射會場孰レモ應招者殺到スルノ盛況ヲ呈シ良好ノ成績ヲ擧ゲツ、アリ。

●所藏映畫

目的	題名	卷	尺	摘	要
「チフテリア」の豫防	兄 妹	四卷	一、一七〇米	昭和七年製作	

二、保菌者檢索

「チフテリア」患者ヲ爆發シタル家ノ家族同居人等ニ對シテ、本年保菌者檢索ヲ行ヒタル人員三百三十六人ニ及ビ、此ノ内二十二名ノ菌保有者ヲ發見シタリ。又別ニ病後排菌者トシテ取締ヲ爲シタル

モノ五十七名アリ、是等保菌者ハ普通一ヶ月以内ニ菌消失シ居レリ。

三、「チフテリア」豫防注射

警視廳ニ於テハ「チフテリア」多發ノ狀勢ニ鑑ミ昨昭和八年以來豫防注射班ヲ編成シ七歳以下ノ小兒ヲ對象トスル「アナトキシン」注射ヲ行ヘリ、又東京市保健局及衛生組合、町會等ニ於テ施行シタルモノモ相應アリテ本年ノ注射人員ハ左表ノ如ク三回注射完了者一七三、五四四人ヲ算シ、開始以來ノ累計ハ八十四萬餘人ニ及ビ、外ニ中斷者十餘萬人アリテ其ノ普及見ルベキモノアリ。

●第一表 昭和十一年中ノ「チフテリア」豫防注射施行人員

施行主體別	注 射 人 員		
	第 一 回	第 二 回	第 三 回
警 視 廳 注 射 班 東京市及町村、町會、衛生組合等	八八、四五八	八三、六六〇	八〇、二二〇
本 年 計	一一一、八七九	一〇二、一五七	九三、三二四
前 年 來 ノ 累 計	二〇〇、三三七	一八五、八一七	一七三、五四四
	九七二、七二八	九〇七、七三八	八四七、八七一

備考 警視廳及東京市注射班ノ施行シタルモノハ専ラ數ヘ年二歳(滿一歳未滿ハ除ク)以上七歳ノ小兒ヲ目標トセルモ、町村、町會、衛生組合等ノ施行セルモノニハ小學校兒童ヲ含メルモノアリ

尙本年發生ノ患者四千四百五人中既往ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアリトシテ警察署ヨリ報告シ來ルルモノ百五十三名(注射後一ヶ月以内ノ發病者ヲ除ク)アリ、内死亡轉歸者ハ僅ニ七名ニシテ其ノ死亡率ハ四・五八%ノ低率ナリ

總患者ノ統計上ニ於テハ、是等豫防注射ノ對象トセル年齢級ノ罹患者割合ハ第五節四ニ記述スル如ク、近來著シク減少シ豫防注射ノ效果ヲ反映スルニ至レリ、然レドモ之ヲ地域的或ハ施行季節上ヨリ觀察スルトキハ注射ニ由ル免疫ノ成生ニ相當顯著ナル差違アルヤニ看取セラル。

●昭和十一年「デフテリア」患者ニシテ既往ニ豫防注射ヲ受ケタルコトアル者

注射施行年度	注射完否		計	同上中死亡者
	三回注射完了者	二回ニテ中斷者		
昭和八年	六	一	二二	一
同九年	九	—	三九	—
同十年	二	三	六九	—
同十一年	二	三	二三	—
合計	二九	七	一五三	七

四、「チフテリア、シツクテスト」

「チフテリア」豫防注射ハ一般ニ好評ヲ以テ迎ヘラレ何レノ注射場ニモ小兒ヲ擁シタル母姉ノ殺到スル盛況ヲ呈シ居レリ、然レドモ前項記述ノ如ク既往注射者ニシテ罹患スル者相當アルヲ以テ、免疫成生ノ程度奈邊ニアルカラ知ラント欲シ既往ニ「チフテリア、アナトキシシ」注射ヲ完了シタル兒童ニ對シ、昨年十月以來「シツクテスト」ヲ施行中ノ處本年末迄ニ一萬餘人ノ検査ヲ了セリ、今其ノ成績ヲ概述セバ左ノ如シ。

1. 既豫防注射兒童ニ對シテ施行セル「シツクテスト」ノ陽性率ハ注射後ノ經過年數一年ニ於テ一七・七六%、二年ハ一九・九八%、三年ハ二〇・六九%ニシテ、一年最モ低ク經過年數ノ加算スルニ從ヒテ高率ヲ示シ而モ一年ト二年トノ間ニハ著シキ差異ヲ呈シタリ。
2. 年齢別「シツク」陽性率ハ三歳、四歳、五歳、六歳等ノ幼若兒童ハ高率ニシテ年齢加算ト共ニ遞減シ、三歳ノ陽性率ハ二八・〇%ニシテ十歳ノ一四%ナルニ比シ倍加シ居レリ。
3. 性別ノ「シツク」陽性率ハ各年齢級ヲ通ジテ女性ノ方男性ヨリモ二乃至三%高シ。
4. 季節別ノ「シツク」陽性率ハ既往豫防注射施行時ノ季節ニ依リテ著シキ差異ヲ示シ、冬季ニ施行セル地域ノ陽性率ハ七乃至一〇%ニシテ著シク低ク、夏季施行セル地域ノ陽性率ハ二三乃至二六%ニシテ頗ル高ク、此ノ對比ハ夏季ニ注射シタルモノハ冬季ニ注射シタルモノニ比シ約三倍ノ高率ヲ呈シタリ。

5. 地域別ニ於テハ大體患者多發地域ニ「シツク」陽性率高ク、注射施行後ノ經過年數ニ比例シテ「シツク」陽性率増騰セリ。
6. 「シツクテスト」ノ成績ヲ家族的ニ調査スルニ同胞ノ全部陽性或ハ全部陰性者ハ八〇%ヲ占ム而シテ全部陽性者ハ其ノ一五乃至二〇%ニシテ平均約 $\frac{1}{6}$ ニ當リ、女性ハ男性ヨリモ陽性者多シ。
7. 體質的ニ見タル陽性率ハ年齢的體質ト個體素質トニ緊密ナル因果關係アリテ本病感受性ハ體質ニ重大ナル關係アルヲ認メタリ。
8. 「シツクテスト」陽性ノ強弱程度ハ注射後ノ經過年數一年ノモノニ最モ強クシテ二年トノ間ニ著明ナル差異ヲ示シ、三年ノモノハ其ノ程度最モ弱シ又女性ニハ強キモノ多シ。
9. 豫防注射ヲ二回反復施行セル者ノ一年後ニ於ケル「シツクテスト」ハ九〇%以上ノ陰性轉向性ヲ示シタリ。
10. 注射兒童ノ陽性率ハ注射後三年ニ及ベバ大體非注射兒童ノ陽性率ニ近似セリ。
以上ノ諸點ヲ綜合シテ將來ノ「デフテリア、アナトキシシ」注射施行上ノ意見及注意ヲ掲グレバ、
(イ) 「デフテリア、アナトキシシ」ハ注射後一年以内ハ頗ル顯著ナル有效價ヲ示ス。然レドモ三年後ニ至レバ其ノ效果大ニ殺滅セラル。
- (ロ) 豫防注射ニヨリテ享有セル免疫抗體ノ消失狀況ハ注射後一年以内ニ急速ナル減少ヲ來タシ、

以後ハ徐々ニ遞減スル如ク思惟セラル。

- (ハ) 豫防注射ヲ受ケタル後三年ヲ經過セル兒童ハ注射ノ免疫效果ヲ相當ニ消失ス、然レドモ其ノ七歳以上殊ニ八歳以上ノ兒童ニ於テハ年齢加算ニヨル體質抵抗力ノ自然増加ニヨリテ本病ニ對スル感受性ハ著シク低下スルモノト思料セラル。
- (ニ) 「デフテリア、アナトキシシ」注射ハ年齢七歳以下殊ニ六歳以下ノ幼若兒童ヲ主目標トシテ行フコトガ最モ實狀ニ測シ豫防的價値大ナリト思惟ス。
- (ホ) 「デフテリア、アナトキシシ」注射ヲ反復施行スルコトハ其ノ有效價ヲ確實且ツ一層増大ス、而シテ二回反復施行ノ場合ニ在リテハ六歳以下ノ幼若年齢期ニ完了セシムルヲ以テ效果的ナリトス。
- (ヘ) 防疫行政上ニ立脚シテ反復注射施行ノ場合ハ種々ナル事情ヲ加味シ年齢二歳乃至四歳ノ時ニ二回又ハ三回式ノ注射ヲ行ヒ、五歳乃至七歳ノ時ニ一回又ハ二回式ノ注射ヲ反復スルヲ最モ有效適切ナル手段ナリト思惟ス。
- (ト) 注射施行ノ季節的時期ハ冬期ヨリ陽春ノ候ヲ最モ得策トスベク、之レニ反シ六月下旬ヨリ九月上旬殊ニ七、八月ノ候ニ於ケル施行ハ其ノ效果的見地ヨリ一考ヲ要スベキモノト思惟セラル。

●第一表 既豫防注射施行兒童ノ「デフテリア、シツクテスト」成績

經過年數	豫防注射後	檢診人員	陽性人員	陽性		一家二名以上		一家一名ノモノ	
				百分比	檢診人員	陽性人員	百分比	檢診人員	陽性人員
一	年	四、四〇九	七八三	一七・七六	二、〇九三	二、三二六	二、三二六	三五九	一五・五〇
二	年	四、〇四四	八〇八	一九・九八	一、九〇七	四〇一	二、一〇二	四〇七	一九・〇五
三	年	二、〇二五	四一九	二〇・六九	一、〇七六	二二六	二〇・九八	九四九	二〇・三六
合計		一〇、四七八	二、〇一〇	一九・一八	五、〇七六	一、〇五一	二〇・七〇	五、四〇二	一九・七六

●第二表 年齢及性別陽性率

年齢別	一		二		三		年		合	
	檢診數	陽性數	檢診數	陽性數	檢診數	陽性數	百分比	百分比	檢診數	陽性數
三	二〇五	五七	二〇五	五七	二〇五	五七	二七・八〇	二七・八〇	二〇五	五七
四	二〇七	五九	二〇七	五九	二〇七	五九	二八・五〇	二八・五〇	二〇七	五九
五	四七	一四	四七	一四	四七	一四	二九・六〇	二九・六〇	四七	一四
六	四二	一〇	四二	一〇	四二	一〇	二三・八〇	二三・八〇	四二	一〇
七	四二	一〇	四二	一〇	四二	一〇	二三・八〇	二三・八〇	四二	一〇
八	四二	一〇	四二	一〇	四二	一〇	二三・八〇	二三・八〇	四二	一〇
九	四二	一〇	四二	一〇	四二	一〇	二三・八〇	二三・八〇	四二	一〇
十	四二	一〇	四二	一〇	四二	一〇	二三・八〇	二三・八〇	四二	一〇
合計	三九七	七七	三九七	七七	三九七	七七	一九・九二	一九・九二	三九七	七七

年齢別	一		二		三		年		合	
	檢診數	陽性數	檢診數	陽性數	檢診數	陽性數	百分比	百分比	檢診數	陽性數
六	四〇五	五二	四〇五	五二	四〇五	五二	一二・五九	一二・五九	四〇五	五二
七	三九二	六七	三九二	六七	三九二	六七	一六・七九	一六・七九	三九二	六七
八	三六六	四〇	三六六	四〇	三六六	四〇	一〇・九三	一〇・九三	三六六	四〇
九	三五五	五〇	三五五	五〇	三五五	五〇	一四・〇九	一四・〇九	三五五	五〇
十	三三三	四三	三三三	四三	三三三	四三	一二・九一	一二・九一	三三三	四三
合計	一、四〇五	二一五	一、四〇五	二一五	一、四〇五	二一五	一五・三〇	一五・三〇	一、四〇五	二一五

第九節 其ノ他ノ防疫施設

一、流行性腦脊髄膜炎ノ豫防

本年發生シタル流行性腦脊髄膜炎患者ノ家族同居人ニ對シテ、保菌者檢索ヲ施行シタル人員ハ千四

十二人ニ及ビ健康保菌者五十一名ヲ發見シ居レリ。

●流行性腦脊髄膜炎保菌者檢索表

病後繼續排菌者	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十年	合計
檢索數	三五二	六九三	八九七	一、三一四	六七〇	七三〇	一、二〇五	一、五八八	一、〇四二	八、四九二
保菌者發見數	三	一七	二四	一九	九	二	五二	四五	五一	二二二
發見千分率	八・五	二四・五	二六・八	一四・五	一三・四	二・七	四三・二	二八・三	四八・九	二六・一四
病後繼續排菌者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二

二、「ペスト」豫防

東京市保健局ニ常置スル除鼠班ニ、當部ヨリ監督員七名ヲ配置シテ河海沿岸地帯其ノ他要地ノ捕鼠勵行ニ努メ、市内巡查派出所ノ集鼠箱ニ投入シタルモノヲ蒐集シ共ニ之ヲ、細菌檢査所三河島出張所ニ移送シテ鼠體ノ細菌檢査ヲ施行シ、以テ鼠族間ニ於ケル「ペスト」流行ノ有無ニ關シ不斷監視ヲ行ヒツツアリ。

家鼠ノ驅除ハ、赤痢等ノ豫防上ニ於テモ亦相當重要視スベキ關係ニアリ、此見地ニ於テ本年小地域的ニ捕鼠週間ヲ催シ、町會費或ハ衛生會費ヲ以テ買上ヲ行ヒタル尙尠カラズ、尙巡查派出所ニ設置スル集鼠箱ハ從來東京市舊市域ニ限り居タルモ、之ヲ新市域ニモ擴張スルノ必要ヲ認メ豫テ東京市當局ニ勸奨中ノ處準備整ヒ本年六月ヨリ實施スルニ至レリ、是ニ由リ「捕鼠デー」ノ開催ト相俟テ本年ノ鼠體蒐集檢査數ハ一躍十萬ノ増加ヲ見タリ。

●除鼠數

年次	捕鼠及蒐集鼠數
昭和七年	一九七、九六六
同八年	一九〇、九七二
同九年	一八六、三〇三
同十年	一七八、七三九
同十一年	二七三、八六一

三、流行性腦炎

八月下旬俄カニ流行性腦炎ノ届出頻リ、同月二十一日ヨリ下旬迄ノ間ニ於テ四十名ニ上レリ、恰モ昨年ノ同時期ニハ流行猖獗シタルニ鑑ミ銳意其ノ動向ヲ注視シタル處、幸ニ九月ニ入ルヤ速ニ跡ヲ絶チタリ。

昨年ノ本病經過者ニシテ今猶後遺症ニ惱メルモノ多數アルニ鑑ミテ、慶應義塾大學病院ト協議シ該

當者ニ勸説シテ同院ニ通院セシメ、之ニ關スル調査竝後療法ノ指導ヲ行ヘリ其ノ人員三百一名ニ及ビタリ。

四、「デング」熱

管下小笠原島ニ於テハ、比年秋季ニ「デング」熱ノ流行アリシガ本年ハ早ヤクモ六月頃患者ノ發生アリ、一時狀勢ヲ懸念シタルガ幸ニ其ノ儘終熄ヲ告ゲタリ。

五、人ノ脾脫疽

二月中旬、本所區吾妻橋一丁目ノ刷毛製造職工ノ家族男一名左足ノ脾脫疽ニ罹レルヲ以テ、同刷毛原料ニ就テ警戒シタルガ、幸ニ續發患者ヲ見ザリキ。

六、「ゲルトネル」氏菌中毒

食中毒事件發生ノ場合ハ、關係主務係ト連絡シテ每常細菌學的検査ヲ行ヒ居レリ、之ニ依リ赤痢ヲ發見シタル事例少カラザルガ、亦「ゲルトネル」氏菌ヲ檢出スルコト時々アリ、本年ハ七月ニ於テ荒川區ノ自轉車製造業ノ家庭ニテ豚肉調理ニ由リ七名同菌ニ因ル發病アリ内一名死亡ス、又十月中旬ニハ豊島區ノ保姆學校寄宿舎ニ於テ、豚汁ノ惣菜ヲ食シタル者十三名發病シタルガ是亦同菌ノ原因セルコトヲ認メタリ、此ノ外ニモ急性中毒死ヨリ同菌ヲ檢出シタル事例アリ。

七、防疫關係諸營業及染傳病院ノ取締

屑物營業者ニ對シテハ痘瘡其ノ他ノ傳染病豫防上ノ見地ニ於テ、消毒ノ勵行ヲ期シ、脱法行為者ヲ監視シツ、アリ、又消毒營業及傳染病院等ニ對シテモ、夫々專務職員ヲ配置シテ、其ノ視察取締ノ勵行ニ當ラシメ、防疫上遺憾ナキヲ期シタリ。

昭和十年ノ屑物營業者數及其ノ取扱數量等左ノ如シ。

●屑物營業者現在數(昭和十一年末現在)

屑物消毒所	一三所	昭和十一年中ノ取締規則違反件數	二件
屑物漂白場	二〇所		
屑物取扱所	三三六所	1. 行政處分(許可取消)	三五〇件
屑物買入所	三五八所		
計	七二七所	2. 司法處分	

●昭和十一年中屑物營業者ノ取扱タル屑物數量及消毒施行數量

管内ニ於ケル買入數量	二、八七三、六三四貫匁
他府縣ヨリノ搬入數量	一、二七八、〇六九貫匁
計	四、一五一、七〇三貫匁
消毒施行數量	四、〇六七、八五八貫匁
再消毒施行數量	二六四、五九三貫匁
計	四、三三二、四五一貫匁

備考 右消毒ノ爲防疫職員ノ消毒立會延回数ハ八百八十八日ニ及ヘリ。

八、細菌検査所病原菌検索成績

警視廳細菌検査所ニ於ケル病原菌検索件數ハ左表ノ如ク、本年ハ合計百二十八萬一千餘件ニ及ベリ其ノ前年ニ比シテ件數ノ著シク減シタルハ特設防疫班ヲ廢シタルコト並學術振興會援助ノ下ニ行ヒ居タル赤痢菌検索竝研究ヲ中斷シタルニ由ル。

◎最近五箇年間ニ於ケル細菌検査成績一覽表

Table with columns for Disease Type (赤痢, 腸「チフス」, 「パラチフス」), Year (昭和七年 to 昭和十一年), and sub-columns for Examination Count, Positive Count, and Healthy Count.

Main table with columns for Disease Type (流行性膜性炎, 「コレラ」, 「ハ」, 「チフテリア」), and sub-columns for Examination Count, Positive Count, and Healthy Count.

備考 右表ノ項別ハ當初標示ノ供給種別ニ從ヒテ區分集計シタルモノニシテ、検査判定後ノ狀況ニ依リテ種別ヲ變更(例之注意患者トシテ供給シタルモ結局保菌者トシテ扱ヒタルモノ、或ハ健康者ノ検査中發病シタルモノ等)シタルモノアルヲ以テ既述ノ統計トハ符合セザル點アリ

第三章 宮内關係防疫事務

聖上陛下 十二月二十五日多摩御陵ニ行幸 皇后陛下ニハ十一月二十五日又 皇太后陛下ニハ六月十八日及十二月十八日多摩御陵ニ行啓アラセラレタリ、行幸啓地ニ對シテハ事前ニ各種防疫施設ヲ勵行シテ傳染病等ヲ流行セシムルコトナク地方靜謐上遺憾ナキヲ期シタリ。

行幸啓時ニ於ケル防疫措施ニ就テハ、昭和二年制定ノ「宮内關係防疫事務取扱順序」ト「警衛規程第五章」ニ依ルノ外其ノ都度指示ヲ以テ實施シ來レルモ、其ノ統一ヲ期スル爲十一月一日發衛防第五〇四號依命通牒ヲ以テ「行幸啓ニ於ケル防疫措施」内規ヲ制定シ、爾今之ヲ規範トシテ實施スルコト、セリ。

本年ハ宮城内官舎ニ赤痢二名發生シ皇族邸内ニ發生シタル傳染病ハ腸「チフス」一件、赤痢二件、「ヂフテリア」二件、猖紅熱二件、計六件アリ、又宮内省各部局職員並宮城出入商工業者ニシテ傳染病毒汚染ノ爲ニ參入停止ヲ命ゼラレタルモノ百二件アリタリ、是等ニ對シテハ夫々機宜ノ豫防措置ヲ講ジ遺憾ナキヲ期シタリ。

禁闕ニ傳染病發生シタル場合ノ外部ニ於ケル取扱並常時ニ於ケル其ノ防疫事務ニ關シテハ、前掲「宮内關係防疫事務取扱順序」ヲ指針トシテ夫々警察署ニ取扱ハシメ、防疫課ニ巡廻視察員トシテ防疫醫

一名防疫監吏三名ヲ置キテ、毎年一定計畫ノ下ニ宮内省各部局ニ食料品ヲ納入スル業者ノ、店舗及製造所ノ衛生状態ヲ視察シ従業員及家族ノ健康診斷檢便等ヲ行ヒツ、アリ、

宮内省各部局ニ食料品ヲ納入スル業者ハ本年末現在ニ於テ、大膳寮用達商百三名、皇后宮職ニ八名、大宮御所ニ十六名、其ノ他ノ部局ニ七十五名、合計二百二名ニシテ其ノ従業員及家族數三千五百二十人ヲ算セリ、本年之ニ對シ健康診斷及檢便ヲ施行シタル成績ハ左表ノ如クニシテ、多數ノ傳染性疾患及保菌者ヲ發見シ居レリ、蓋シ是等保菌者等ノ中ニハ時ニ禁苑ヲ汚スコトノアルベキヲ想定セラレ實ニ恐懼ニ堪ヘザル處ニシテ、此ノ施設ノ重要性ト當事者トシテノ責務ノ重大ヲ痛感スルコト切ナリ。

●第一表 宮内省食料品納入業者ニ對スル健康診斷施行成績

年 次 別	健康診斷(健康視察ヲ含ム)施行延人員	發 見		計
		宮内傳染病豫防令規定ノ疾患	普通病患者	
昭和七年	八五、一〇二	三八	三三〇	三六八
同 八 年	七七、六五六	二八	二五六	二八四
同 九 年	六七、九六七	三一	二五〇	二八一
同 十 年	八四、六二一	五四	二六八	三二二
同 十 一 年	八三、五八〇	二〇	二八二	三〇二

●第二表 病原體保有者檢索成績

年次別	檢索延人員	發見保菌者				
		「腸チフス」菌	「バラチフス」菌	赤痢菌	「ゲルトネル」氏菌	
昭和七年	一四、九三六	—	二	一三	—	一六
同八年	一五、六四七	—	二	二二	—	二四
同九年	一一、七三一	—	—	一三	—	一四
同十年	一六、二四八	—	二	四四	—	四六
同十一年	一三、三四五	—	—	一一	—	一三
計						

備考 本表ニハ四大節及觀櫻、觀菊御會ノ際臨時宮中ニ備入ラルル料理人、配膳人ニ對スル施行人員ヲ含ム

昭和十二年十一月十八日印刷
昭和十二年十一月二十日發行

警視廳衛生部

印刷人 西脇嘉清
東京市京橋區槇町一丁目一番地

印刷所 株式會社一成社
東京市京橋區槇町一丁目一番地

電話京橋(56)八一三番

